

## 毒性・影響(5) (1-F-16-3～1-F-17-4)

当セッションでは、6課題について報告がなされた。先ず、DNA マイクロアレイを用いた環境中の微生物を検出する事を目的に、1遺伝子置換を区別するための最適条件の検討が発表された。目的の重要性は明らかであるが、今後解決しなければならない課題の多さを示した結果であった。続いて、酵母 DNA マイクロアレイを用いた、気体の影響評価について発表が行われた。気体のバイオアッセイを加圧下で行うことで、その影響を明確に示そうという課題である。今回は標準気体であるが、大気には酸素が含まれており、この影響をいかに除くかが今後の課題であろう。同様に酵母を用いたバイオアッセイ特にレポーター遺伝子アッセイの開発について発表があった。多指標型の系を用いて、複合影響を物質レベルで評価しようという試みである。多指標型の遺伝子指標は今後のバイオアッセイの主流となるべきであり、より安価なシステムを供給してほしい。硫酸還元菌の検出培地の検討では、廃棄物処理場の解析を目的に発表された。課題の難しさが強調された発表であった。最初の課題とも関連するが、環境微生物を網羅的に解析するシステムの開発は、今後の重要な課題である。残りの2課題は共に海洋環境に関連する課題であった。産廃埋立処分場侵出水中のTOCについて、その光・微生物分解と化学物質のバイオアッセイに関する報告では、処理と処理後の生物影響評価を総合的に解析しており、どのようにシステムを作り上げて行くのか期待される。有機ホウ素系船底防汚剤の水中生物に及ぼす影響評価では、対象物質として KH101 を用いてその光分解により、毒性の減少することが示された。会場からは、研究に対する評価を示す意見が多かった。本セッションは、当日最後のセッションということもあり、内容が多岐にわたっていたが、最後まで、参加者は多く、ご協力に感謝したい。特に、北大岡部先生には、多数の意見を頂いた。活発な討論へのご協力に感謝したい。

(産業技術総合研究所 岩橋 均)